

平成24年6月27日

各 位

会 社 名 株式会社プリシパル・コーポレーション  
代表者名 代表取締役社長 菊地 博紀  
( J A S D A Q ・ コード 3 5 8 7 )  
問合せ先  
役職・氏名 取締役 井上 政隆  
電話 03 - 3582 - 3190 (代)

(訂正・数値データ訂正)「平成24年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

平成24年5月14日に発表いたしました「平成24年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の記載内容について訂正がありましたのでお知らせします。修正箇所は下記のとおりです。

本日、関東財務局に有価証券報告書を提出し、最終的に当期の決算内容が確定いたしましたので、併せまして第67期決算短信についても訂正を行なうことにいたしました。訂正理由につきましては、連結キャッシュ・フロー計算書に適切な課目での個別表記等がなされておらず、また、単純なミスによる計算の間違いが発生したこと、継続企業の前提に関する注記等に記載が正確に当社の状況を表記したものではありませんこととなります。また、数値データにも訂正がありましたので訂正後の数値データも送信します。

訂正箇所は\_\_\_\_を付して表示しております。

以 上

## 1. 経営成績

### (4) 事業等のリスク

#### (訂正前)

当社グループの事業展開上の主なリスク要因には以下のようなものがあります。以下の記載事項は当社グループの事業上のリスクをすべて網羅するものではありません。また、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象または状況

当社グループは、営業活動によるキャッシュ・フローが数期に亘りマイナスであり、当連結会計年度末において476百万円の債務超過となっております。また、運転資金および事業規模拡大のための投資資金を、外部調達によって賄う体質となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消するため、キャッシュ・フローを当社グループに経常的にもたらし得る事業の新規取得を行うべく、候補となる資産又は事業を複数検討しております。検討にあたっては、既にキャッシュ・フローを生んでいる資産または、現時点ではキャッシュ・フローを生んでいないものの、販売先とのオフイク契約が締結されている等、早期にキャッシュ・フローを生むことがほぼ確実と見込まれる資産を対象としております。その結果、当連結会計年度において、飲食店2店舗を譲り受け、またLED照明機器販売事業及び店舗支援システム事業に参入いたしました。

当社グループでは、新たに開始した事業は、経常的にキャッシュ・フローをもたらし得る事業であると認識しており、営業キャッシュ・フローをプラスに転じさせる計画であります。

一方で、新規事業の開始には、外部からの資金調達が必要であり、前連結会計年度より資金調達の可能性を探り、様々な調達方法を検討してまいりましたが、当社において過年度の決算修正を行うこととなる会計処理の問題と内部統制の問題が発生したため、一旦社内の体制作りを優先し、資金調達を控えておりました。現在、社内および社外の調査が終了し、当社における対処すべき課題とその対応策がはっきりとしたため、一時保留していた資金調達の動きを再開し、早期に資金調達を行うべく動き始めております。

しかしながら、当社グループの事業は国内の景気、消費動向等の影響を受け、また、特に新規事業については、資金調達の実現の程度、時期によりその進捗状況も異なってくることから、期待通りの成果が出るか否かについてはリスクを伴い、実現できない可能性があるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

#### (2) 運転資金の調達に係るリスク

前記「(1) 継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象または状況」のとおり、当社グループは、営業活動によるキャッシュ・フローが未だマイナスであり、運転資金および事業規模拡大のための投資資金を、外部調達によって賄う状況となっております。このような状況の改善のため、営業キャッシュ・フローを生む資産又は事業に対する投資を第一に考える方針に転換しております。

#### (3) 貸倒のリスク

当社の連結子会社である㈱ハミングステージは、野菜等の食品の仕入等を行っておりますが、業界慣習上、一部の比較的大手の仕入先からは、保証金の差入を求められることがあり、保証金の返還時に返還されず貸し倒れるリスク、または、販売先から売掛金の回収ができず貸し倒れるリスクがあります。このほか、当社についても、債権の貸倒のリスクがあります。

#### (4) 新規事業の不確実性に伴うリスク

当社グループは、数期に亘り営業キャッシュ・フローがマイナスである体質を改善すべく、経常的なキャッシュ・フローを早期に生む事業への投資を第一に考える方針を取っており、早期に形動的なキャッシュ・フローを生むと判断する投資案件に投資を行ってまいりました。

しかしながら、さらなる投資案件の実行については、現時点において確定しているものではなく、今後、さらに調査および交渉等を行う必要があります。このため、確実に早期より、且つ経常的にキャッシュ・フローを生むか否か、またその金額については、不確実性を伴うものであり、結果的に投資額が回収できず損失が発生するリスク、また、当社の経常キャッシュ・フローがプラスに転じず、最終的に当社グループが運転資金不足に陥るリスクがあります。

#### (5) 自然災害・事故等のリスク

当社の連結子会社である㈱ハミングステージの小売店舗において、大地震や台風等の災害あるいは事故等が発生した場合、事業の継続または通常の運営に支障をきたす可能性があります。また、災害・事故・暴動・テロ活動その他仕入・物流・販売に影響する何らかの事故が発生した場合においても、営業活動が阻害され、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (6) 景況および消費動向によるリスク

当社の連結子会社の㈱ハミングステージは、食品を主体にした小売業に進出しましたが、販売面では景気動向や消費動向等の経済情勢や、出店地域の人口動態や気象動向、または仕入面では異常気象等による生鮮商材の需給や原材料費の大幅な変動が、業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (7) 食品の安全性のリスク

連結子会社の㈱ハミングステージが経営している食品スーパーマーケットについては、食品の売上構成比が極めて高くなっております。消費者の「食」の安全に対する意識も極めて高くなっている中で、ハミングステージ社の店舗におきましても「食品衛生法」等に遵守した衛生管理、品質管理等を徹底し食中毒の発生防止に取り組んでおります。しかしながら、BSE（狂牛病）や鳥インフルエンザの発生や、また東日本大震災に端を発する放射性物質による農産品等の汚染問題が発生し、社会問題となっており、生産者や流通過程等による異物混入や虚偽表示等の事故・事件が発生した場合には、お客様の食品一般に対する不信任や店舗に対する信頼・信用の毀損により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (訂正後)

当社グループの事業展開上の主なリスク要因には以下のようなものがあります。以下の記載事項は当社グループの事業上のリスクをすべて網羅するものではありません。また、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

##### (1) 継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象または状況

当社グループは、営業活動によるキャッシュ・フローが数期に亘りマイナスであり、当連結会計年度末において 476 百万円の債務超過となっております。また、運転資金および事業規模拡大のための投資資金を、外部調達によって賄う体質となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消するため、キャッシュ・フローを当社グループに経常的にもたらし得る事業または資産の新規取得を行うべく、候補となる事業または資産を複数検討しております。検討にあたっては、既にキャッシュ・フローを生んでいる事業または資産、または現時点ではキャッシュ・フローを生んでいないものの、確実性の高い売上・利益が見込まれる等、早期にキャッシュ・フローを生むことがほぼ確実と見込まれる事業または資産を対象としております。その結果、当連結会計年度において、飲食店 2 店舗を譲り受け、またLED照明機器販売事業及び店舗支援システム事業に参入いたしました。

当社グループでは、新たに開始した事業は、経常的にキャッシュ・フローをもたらし得る事業であると認識しており、営業キャッシュ・フローをプラスに転じさせる計画であります。

一方で、新規事業の開始には、外部からの資金調達が必要であり、前連結会計年度より資金調達

の可能性を探り、様々な調達方法を検討してまいりましたが、当社において過年度の決算修正を行うこととなる会計処理の問題と内部統制の問題が発生したため、一旦社内の体制作りを優先し、資金調達を控えておりました。現在、社内および社外の調査が終了し、当社における対処すべき課題とその対応策がはっきりとしたため、一時保留していた資金調達の動きを再開し、早期に資金調達を行うべく動き始めております。

しかしながら、当社グループの事業は国内の景気、消費動向等の影響を受け、また、特に新規事業については、資金調達の実現の程度、時期によりその進捗状況も異なってくることから、期待通りの成果が出るか否かについてはリスクを伴い、実現できない可能性があるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

#### (2) 運転資金の調達に係るリスク

前記「(1) 継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象または状況」のとおり、当社グループは、営業活動によるキャッシュ・フローが未だマイナスであり、運転資金および事業規模拡大のための投資資金を、外部調達によって賄う状況となっております。このような状況の改善のため、営業キャッシュ・フローを生む資産又は事業に対する投資を第一に考える方針に転換しておりますが、食品事業の計画が未達となることにより、想定している資金の入金がなされず、結果として資金不足が深刻化する可能性があり、また、環境事業の立ち上げにも、計画以上の支出が生ずる可能性があること等により、当社の想定通りいかないなどの理由から、運転資金の調達が困難となるリスクがあります。

#### (3) 貸倒のリスク

当社の連結子会社である㈱ハミングステージは、野菜等の食品の仕入等を行っておりますが、業界慣習上、一部の比較的大手の仕入先からは、保証金の差入を求められることがあり、保証金の返還時に返還されず貸し倒れるリスク、または、販売先から売掛金の回収ができず貸し倒れるリスクがあります。このほか、当社についても、債権の貸倒のリスクがあります。

#### (4) 新規事業の不確実性に伴うリスク

当社グループは、数期に亘り営業キャッシュ・フローがマイナスである体質を改善すべく、経常的なキャッシュ・フローを早期に生む事業への投資を第一に考える方針を取っております。

具体的には、小売店、飲食店にネットワーク対応小型ディスプレイを無償で提供・設置し、広告の配信を行なう店舗支援システム事業を開始し、また、環境事業として、LED・節電器の販売事業を開始しております。

今後における、投資案件の実行については、現時点において確定しているものではなく、今後、さらに調査および交渉等を行う必要があります。このため、確実に早期より、且つ経常的にキャッシュ・フローを生むか否か、またその金額については、不確実性を伴うものであり、結果的に投資額が回収できず損失が発生するリスク、また、当社の経常キャッシュ・フローがプラスに転じず、最終的に当社グループが運転資金不足に陥るリスクがあります。

#### (5) 自然災害・事故等のリスク

当社の連結子会社である㈱ハミングステージの小売店舗において、大地震や台風等の災害あるいは事故等が発生した場合、事業の継続または通常の運営に支障をきたす可能性があります。また、災害・事故・暴動・テロ活動その他仕入・物流・販売に影響する何らかの事故が発生した場合においても、営業活動が阻害され、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (6) 景況および消費動向によるリスク

当社の連結子会社の㈱ハミングステージは、食品を主体にした小売業に進出しましたが、販売面

では景気動向や消費動向等の経済情勢や、出店地域の人口動態や気象動向、または仕入面では異常気象等による生鮮商材の需給や原材料費の大幅な変動が、業績に影響を及ぼす可能性があります

#### (7) 食品の安全性のリスク

連結子会社の㈱ハミングステージが経営している食品スーパーマーケットについては、食品の売上構成比が極めて高くなっております。消費者の「食」の安全に対する意識も極めて高くなっていく中で、ハミングステージ社の店舗におきましても「食品衛生法」等に遵守した衛生管理、品質管理等を徹底し食中毒の発生防止に取り組んでおります。しかしながら、BSE（狂牛病）や鳥インフルエンザの発生や、また東日本大震災に端を発する放射性物質による農産物等の汚染問題が発生し、社会問題となっており、生産者や流過程等による異物混入や虚偽表示等の事故・事件が発生した場合には、お客様の食品一般に対する不信任や店舗に対する信頼・信用の毀損により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (8) 環境事業に関するリスク

当社は、平成 23 年 9 月より環境事業としてLED照明機器販売、LED投光器レンタル事業に参入致しました。当該照明機器、投光器に関しましては、製造メーカーが検査機関の承認を受け、十分な品質を保証する商品ではあるものの、当社が、販売先またはレンタル先から、当該商品について、故障等のクレームを受ける可能性があります。製造メーカーは、製造物責任保険に加入しており、その品質についても最終責任を負う契約としておりますが、何らかの理由により、当社が、販売先またはレンタル先から、損害賠償を受ける可能性があります。また、販売先、レンタル先に対し、十分な与信審査を行い、商品の所有権の留保に努めますが、売掛金・レンタル料の回収が出来ず、貸し倒れるリスクがあります。

#### (9) 店舗支援システム事業に関するリスク

当社は、開発を委託したシステム開発・運用パートナーが開発するネットワーク対応小型ディスプレイを小売店、飲食店に無償で提供・設置し、広告の配信を行ない、当社の収益はアクティブ・インターナショナル・ジャパン社との協同作業によりデジタルサイネージで流す広告枠の販売によって利益を得る事業を平成 23 年 9 月に開始いたしました。しかしながら、現状当社の資金不足により一旦中断しております。今後も当該事業が当社の想定通りに進む保証はなく、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

### 3. 経営方針

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

##### (訂正前)

##### 環境事業の新規の展開

当社は、当期連結年度より環境事業を新たに開始いたしました。元々、天然資源開発投資事業と食品事業のシナジーを生かしようとする隣接事業として検討してはいたしましたが、天然資源開発投資事業から撤退し、食品事業の経営戦略が固まったことから、新規事業として環境事業をスタートし、当社グループの一層の発展を図ります。現時点では、LED・節電器販売事業、リサイクル事業を中心に事業戦略を固めるべく最終段階の調整に入っており、早い時期に収益を生む事業構造を構築するべく準備を進めております。将来は、食品事業と環境事業の 2 本を当社の事業の柱として、収益を上げるだけでなく、社会に貢献していくことができる企業になるべく努力してまいります。

##### (訂正後)

##### 環境事業の新規の展開

当社グループは、このたび天然資源開発投資事業から撤退し、食品事業の事業方針が㈱ハミング

ステージの元々の事業である卸売業、スーパーマーケットによる小売業、及び飲食店の運営による飲食業の3つを核として、事業を展開してまいります。また、新規事業として環境事業をスタートし、当社グループの一層の発展を図ります。現時点では、LED・節電器販売事業、リサイクル事業を中心に事業戦略を固めるべく最終段階の調整に入っており、早い時期に収益を生む事業構造を構築するべく準備を進めております。将来は、食品事業と環境事業の2本を当社の事業の柱として、収益を上げるだけでなく、社会に貢献していくことができる企業になるべく努力してまいります。

#### (4) 会社の対処すべき課題

##### (訂正前)

当社グループは、営業活動によるキャッシュ・フローが数期に亘りマイナスであり、当連結会計年度末において476百万円の債務超過となっております。また、運転資金および事業規模拡大のための投資資金を、外部調達によって賄う体質となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消するため、キャッシュ・フローを当社グループに経常的にもたらし得る資産の新規取得を行うべく、候補となる資産又は事業を複数検討しております。検討にあたっては、既にキャッシュ・フローを生んでいる資産または、現時点ではキャッシュ・フローを生んでいないものの、販売先とのオフイク契約が締結されている等、早期にキャッシュ・フローを生むことがほぼ確実と見込まれる資産を対象としております。その結果、当連結会計年度において、飲食店2店舗を譲り受け、またLED照明機器販売事業及び店舗支援システム事業に参入いたしました。

当社グループでは、新たに開始した事業は、経常的にキャッシュ・フローをもたらし得る事業であると認識しており、営業キャッシュ・フローをプラスに転じさせる計画であります。

一方で、新規事業の開始には、外部からの資金調達が必要であり、前連結会計年度より資金調達の可能性を探り、様々な調達方法を検討してまいりましたが、当社において過年度の決算修正を行うこととなる会計処理の問題と内部統制の問題が発生したため、一旦社内での体制作りを優先し、資金調達を控えておりました。現在、社内および社外の調査が終了し、当社における対処すべき課題とその対応策がはっきりとしたため、一時保留していた資金調達の動きを再開し、早期に資金調達を行うべく動き始めております。

しかしながら、当社グループの事業は国内の景気、消費動向等の影響を受け、また、特に新規事業については、資金調達の実現の程度、時期によりその進捗状況も異なってくることから、期待通りの成果が出るか否かについてはリスクを伴い、実現できない可能性があるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。資金繰りの状況を見極めつつ、経常的なキャッシュ・フローに貢献しうる事業または資産に対する投資を行っていくことが、当社グループの重要な課題であります。

##### (訂正後)

当社グループは、営業活動によるキャッシュ・フローが数期に亘りマイナスであり、当連結会計年度末において476百万円の債務超過となっております。また、運転資金および事業規模拡大のための投資資金を、外部調達によって賄う体質となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消するため、キャッシュ・フローを当社グループに経常的にもたらし得る事業または資産の新規取得を行うべく、候補となる事業または資産を複数検討しております。検討にあたっては、既にキャッシュ・フローを生んでいる事業または資産、または現時点ではキャッシュ・フローを生んでいないものの、確実性の高い売上・利益が見込まれる等、早期にキャッシュ・フローを生むことがほぼ確実と見込まれる事業または資産を対象としております。その結果、当連結会計年度において、飲食店2店舗を譲り受け、またLED照明機器販売事業及び店舗支援システム事業に参入いたしました。

当社グループでは、新たに開始した事業は、経常的にキャッシュ・フローをもたらし得る事業であると認識しており、営業キャッシュ・フローをプラスに転じさせる計画であります。

一方で、新規事業の開始には、外部からの資金調達が必要であり、前連結会計年度より資金調達の可能性を探り、様々な調達方法を検討してまいりましたが、当社において過年度の決算修正を行うこととなる会計処理の問題と内部統制の問題が発生したため、一旦社内での体制作りを優先し、資金調達を控えておりました。現在、社内および社外の調査が終了し、当社における対処すべき課題とその対応策がはっきりとしたため、一時保留していた資金調達の動きを再開し、早期に資金調達を行うべく動き始めております。

しかしながら、当社グループの事業は国内の景気、消費動向等の影響を受け、また、特に新規事業については、資金調達の実現の程度、時期によりその進捗状況も異なってくることから、期待通りの成果が出るか否かについてはリスクを伴い、実現できない可能性があるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。資金繰りの状況を見極めつつ、経常的なキャッシュ・フローに貢献しうる事業または資産に対する投資を行っていくことが、当社グループの重要な課題であります。

#### 4. 連結財務諸表

##### (1) 貸借対照表

(訂正前)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	19,864	18,656
受取手形及び売掛金	6,312	2,731
商品及び製品	31,319	34,739
原材料	-	1,306
貯蔵品	-	1,121
未収入金	2,088	4,648
短期貸付金	18,250	26,651
その他	7,926	22,382
貸倒引当金	18,368	19,318
流動資産合計	67,395	92,116
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	83,449	75,689
減価償却累計額	4,908	7,985
建物及び構築物(純額)	78,541	67,704
機械装置及び運搬具	60,216	-
減価償却累計額	8,370	-
機械装置及び運搬具(純額)	51,846	-
坑井	163,236	163,236
減価償却累計額	154,842	157,149
坑井(純額)	8,394	6,086
車両運搬具及び工具器具備品	9,348	37,522
減価償却累計額	5,843	12,202
車両運搬具及び工具器具備品(純額)	3,505	25,319
有形固定資産合計	142,285	99,110

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
無形固定資産		
のれん	293,475	228,543
ソフトウェア	972	52,836
無形固定資産合計	294,451	281,380
投資その他の資産		
長期貸付金	26,400	23,200
破産更生債権等	209,338	384,856
長期未収入金	238,068	-
長期営業債権	-	-
差入保証金	54,102	100,374
その他	-	71
貸倒引当金	380,306	408,056
投資その他の資産合計	147,602	100,446
固定資産合計	584,339	480,937
資産合計	651,734	573,053
負債の部		
流動負債		
買掛金	124,908	92,227
短期借入金	35,000	626,090
未払金	59,646	190,391
未払法人税等	24,564	10,744
未払費用	680	33,477
リース債務	-	740
その他	11,615	14,445
流動負債合計	256,415	968,117
固定負債		
リース債務	-	1,798
繰延税金負債	15,383	8,391
資産除去債務	42,746	51,949
訴訟損失引当金	-	19,120
固定負債合計	58,130	81,260
負債合計	314,546	1,049,377
純資産の部		
株主資本		
資本金	807,732	807,732
資本剰余金	673,827	673,827
利益剰余金	1,142,521	1,956,033
自己株式	1,850	1,851
株主資本合計	337,188	476,323
純資産合計	337,188	476,323
負債純資産合計	651,734	573,053



(訂正後)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	19,864	18,656
受取手形及び売掛金	6,312	2,731
商品及び製品	31,319	34,739
原材料	-	1,306
貯蔵品	-	1,121
未収入金	2,088	4,648
未収消費税等	4,239	15,476
短期貸付金	18,250	26,651
その他	3,687	6,103
貸倒引当金	18,368	19,318
<b>流動資産合計</b>	<b>67,395</b>	<b>92,116</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	83,449	139,366
減価償却累計額	4,908	1 71,662
建物及び構築物(純額)	78,541	67,704
機械装置及び運搬具	60,216	60,216
減価償却累計額	8,370	1 60,216
機械装置及び運搬具(純額)	51,846	-
坑井	163,236	163,236
減価償却累計額	1 154,842	1 157,149
坑井(純額)	8,394	6,086
車両運搬具及び工具器具備品	9,348	38,584
減価償却累計額	5,843	1 13,265
車両運搬具及び工具器具備品(純額)	3,505	25,319
<b>有形固定資産合計</b>	<b>142,285</b>	<b>99,110</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	293,479	228,543
ソフトウエア	972	52,836
<b>無形固定資産合計</b>	<b>294,451</b>	<b>281,380</b>
<b>投資その他の資産</b>		
長期貸付金	26,400	23,200
破産更生債権等	209,338	384,856
長期未収入金	238,068	-
差入保証金	54,102	100,374
その他	-	71
貸倒引当金	380,306	408,056
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>147,602</b>	<b>100,446</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>584,339</b>	<b>480,937</b>
<b>資産合計</b>	<b>651,734</b>	<b>573,053</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	124,908	92,227
短期借入金	35,000	626,090
未払金	59,646	190,391
未払法人税等	24,564	10,744
未払費用	680	33,477
リース債務	-	740
その他	11,615	14,445
流動負債合計	256,415	968,117
固定負債		
リース債務	-	1,798
繰延税金負債	15,383	8,391
資産除去債務	42,746	51,949
訴訟損失引当金	-	19,120
固定負債合計	58,130	81,260
負債合計	314,546	1,049,377
純資産の部		
株主資本		
資本金	807,732	807,732
資本剰余金	673,827	673,827
利益剰余金	1,142,521	1,956,033
自己株式	1,850	1,851
株主資本合計	337,188	476,323
純資産合計	337,188	476,323
負債純資産合計	651,734	573,053

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書  
(訂正前)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	336,238	818,189
減価償却費	21,737	47,642
減損損失	129,953	142,612
のれん償却額	5,059	66,367
貸倒引当金の増減額( は減少)	380,023	29,310
差入保証金の増減額( は増加)	14,909	25,272
事業譲渡損益( は益)	58,134	-
投資有価証券売却損益( は益)	26,416	-
債権譲渡損益( は益)	18,660	-
関係会社株式売却損益( は益)	689,756	-
和解金	264,652	-
訴訟損失引当金の増減額( は減少)	-	19,120

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
受取利息及び受取配当金	5,301	2,653
支払利息	1,427	29,157
為替差損益(は益)	1,554	-
売上債権の増減額(は増加)	105,439	3,581
たな卸資産の増減額(は増加)	18,958	5,511
未収入金の増減額(は増加)	24,227	2,677
営業債権の増減額(は増加)	11,345	-
長期未収入金の増減額(は増加)	238,068	-
破産更生債権等の増減額(は増加)	209,338	62,549
仕入債務の増減額(は減少)	52,439	32,680
その他	638,283	134,237
小計	471,551	352,407
利息及び配当金の受取額	6,179	700
利息の支払額	746	1,903
法人税等の支払額	6,846	16,674
和解金の受取額	264,652	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	208,312	370,284
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	107,616	10,909
事業譲受による支出	-	149,850
無形固定資産の取得による支出	590	55,000
投資有価証券の売却による収入	33,623	-
関係会社株式の取得による支出	46,561	-
関係会社株式の売却による収入	32,631	-
貸付けによる支出	70,618	189,833
短期貸付金の回収による収入	99,919	184,021
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	27,854	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入(純額)	39,492	-
その他	298,538	71
投資活動によるキャッシュ・フロー	340,405	221,642
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	35,000	591,090
株式の発行による収入	391,114	-
その他	-	370
財務活動によるキャッシュ・フロー	426,114	590,719
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	122,603	1,208
現金及び現金同等物の期首残高	142,468	19,864
現金及び現金同等物の期末残高	119,864	118,656

(訂正後)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	336,238	818,189
減価償却費	21,737	47,642
減損損失	129,953	142,612
のれん償却額	5,059	66,367
貸倒引当金の増減額( は減少)	<u>34,941</u>	29,310
差入保証金の増減額( は増加)	<u>19,057</u>	25,272
事業譲渡損益( は益)	-	-
投資有価証券売却損益( は益)	26,416	-
債権譲渡損益( は益)	<u>17,710</u>	-
関係会社株式売却損益( は益)	689,756	-
和解金	264,652	-
訴訟損失引当金の増減額( は減少)	-	19,120
受取利息及び受取配当金	5,301	2,653
支払利息	<u>1,572</u>	29,157
為替差損益( は益)	-	-
売上債権の増減額( は増加)	105,439	3,581
たな卸資産の増減額( は増加)	<u>31,319</u>	5,511
未収入金の増減額( は増加)	24,227	2,677
長期営業債権の増減( は増加)	11,345	-
長期未収入金の増減額( は増加)	238,068	-
破産更生債権等の増減額( は増加)	209,338	62,549
前払金の増減額( は増加)	28,400	-
仕入債務の増減額( は減少)	52,439	32,680
未払金の増減額( は減少)	22,680	<u>130,744</u>
未払費用の増減額( は減少)	243,196	<u>9,090</u>
預り金の増減額( は減少)	8,032	<u>2,830</u>
その他	<u>1,868</u>	<u>8,427</u>
小計	<u>512,917</u>	352,407
利息及び配当金の受取額	6,179	700
利息の支払額	746	1,903
法人税等の支払額	6,846	16,674
和解金の受取額	264,652	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	<u>249,678</u>	370,284

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	107,616	10,909
事業譲受による支出	-	4 149,850
無形固定資産の取得による支出	299,128	55,000
投資有価証券の売却による収入	33,623	-
関係会社株式の取得による支出	46,561	-
関係会社株式の売却による収入	32,631	-
貸付けによる支出	70,618	189,833
貸付金の回収による収入	100,869	184,021
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	2 7,854	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入(純額)	3 9,492	-
その他	-	71
投資活動によるキャッシュ・フロー	339,455	221,642
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	35,000	591,090
株式の発行による収入	431,640	-
その他	-	370
財務活動によるキャッシュ・フロー	466,640	590,719
現金及び現金同等物に係る換算差額	109	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	122,603	1,208
現金及び現金同等物の期首残高	142,468	19,864
現金及び現金同等物の期末残高	1 19,864	1 18,656

## (5) 継続企業の前提に関する注記

当連結事業年度(自 平成 23 年 4 月 1 日 至 平成 24 年 3 月 31 日)

(訂正前)

当社グループは、営業活動によるキャッシュ・フローが数期に亘りマイナスであり、当連結会計年度末において 476 百万円の債務超過となっております。また、運転資金および事業規模拡大のための投資資金を、外部調達によって賄う体質となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消するため、キャッシュ・フローを当社グループに経常的にもたらし得る資産の新規取得を行うべく、候補となる資産又は事業を複数検討しております。検討にあたっては、既にキャッシュ・フローを生んでいる資産または、現時点ではキャッシュ・フローを生んでいないものの、販売先とのオフテイク契約が締結されている等、早期にキャッシュ・フローを生むことがほぼ確実と見込まれる資産を対象としております。その結果、当連結会計年度において、飲食店 2 店舗を譲り受け、また LED 照明機器販売事業及び店舗支援システム事業に参入いたしました。

当社グループでは、新たに開始した事業は、経常的にキャッシュ・フローをもたらし得る事業であると認識しており、営業キャッシュ・フローをプラスに転じさせる計画であります。

一方で、新規事業の開始には、外部からの資金調達が必要であり、前連結会計年度より資金調達の可能性を探り、様々な調達方法を検討してまいりましたが、当社において過年度の決算修正を行うこととなる会計処理の問題と内部統制の問題が発生したため、一旦社内での体制作りを優先し、資金調達を控えておりました。現在、社内および社外の調査が終了し、当社における対処すべき課題

とその対応策がはっきりとしたため、一時保留していた資金調達の動きを再開し、早期に資金調達を行うべく動き始めております。

しかしながら、当社グループの事業は国内の景気、消費動向等の影響を受け、また、特に新規事業については、資金調達の実現の程度、時期によりその進捗状況も異なってくることから、期待通りの成果が出るか否かについてはリスクを伴い、実現できない可能性があるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。資金繰りの状況を見極めつつ、経常的なキャッシュ・フローに貢献しうる事業または資産に対する投資を行っていくことが、当社グループの重要な課題であります。

なお、連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を連結財務諸表には反映しておりません。

(訂正後)

当社グループでは、新たに開始した事業は、経常的にキャッシュ・フローをもたらし得る事業であると認識しており、営業キャッシュ・フローをプラスに転じさせる計画であります。

一方で、新規事業の開始には、外部からの資金調達が必要であり、前連結会計年度より資金調達の可能性を探り、様々な調達方法を検討してまいりましたが、当社において過年度の決算修正を行うこととなる会計処理の問題と内部統制の問題が発生したため、一旦社内の体制作りを優先し、資金調達を控えておりました。現在、社内および社外の調査が終了し、当社における対処すべき課題とその対応策がはっきりとしたため、一時保留していた資金調達の動きを再開し、早期に資金調達を行うべく動き始めております。

しかしながら、当社グループの事業は国内の景気、消費動向等の影響を受け、また、特に新規事業については、資金調達の実現の程度、時期によりその進捗状況も異なってくることから、期待通りの成果が出るか否かについてはリスクを伴い、実現できない可能性があるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。資金繰りの状況を見極めつつ、経常的なキャッシュ・フローに貢献しうる事業または資産に対する投資を行っていくことが、当社グループの重要な課題であります。当社グループは、営業活動によるキャッシュ・フローが数期に亘りマイナスであり、当連結会計年度末において 476 百万円の債務超過となっております。また、運転資金および事業規模拡大のための投資資金を、外部調達によって賄う体質となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消するため、キャッシュ・フローを当社グループに経常的にもたらし得る事業または資産の新規取得を行うべく、候補となる事業または資産を複数検討しております。検討にあたっては、既にキャッシュ・フローを生んでいる事業または資産、または現時点ではキャッシュ・フローを生んでいないものの、確実性の高い売上・利益が見込まれる等、早期にキャッシュ・フローを生むことがほぼ確実と見込まれる事業または資産を対象としております。その結果、当連結会計年度において、飲食店 2 店舗を譲り受け、また LED 照明機器販売事業及び店舗支援システム事業に参入いたしました。

当社グループでは、新たに開始した事業は、経常的にキャッシュ・フローをもたらし得る事業であると認識しており、営業キャッシュ・フローをプラスに転じさせる計画であります。

一方で、新規事業の開始には、外部からの資金調達が必要であり、前連結会計年度より資金調達の可能性を探り、様々な調達方法を検討してまいりましたが、当社において過年度の決算修正を行うこととなる会計処理の問題と内部統制の問題が発生したため、一旦社内の体制作りを優先し、資金調達を控えておりました。現在、社内および社外の調査が終了し、当社における対処すべき課題とその対応策がはっきりとしたため、一時保留していた資金調達の動きを再開し、早期に資金調達を行うべく動き始めております。

しかしながら、当社グループの事業は国内の景気、消費動向等の影響を受け、また、特に新規事業については、資金調達の実現の程度、時期によりその進捗状況も異なってくることから、期待通

りの成果が出るか否かについてはリスクを伴い、実現できない可能性があるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。資金繰りの状況を見極めつつ、経常的なキャッシュ・フローに貢献しうる事業または資産に対する投資を行っていくことが、当社グループの重要な課題であります。

なお、連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を連結財務諸表には反映しておりません。

(7) 表示の方法  
(訂正前)

当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
(連結貸借対照表関係)	
前連結会計年度において、「流動負債」の「未払金」に含めていた「未払費用」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「未払金」に表示していた60,326千円は、「未払費用」680千円、「未払金」59,646千円として組み替えております。	

(訂正後)

当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
(連結貸借対照表関係)	
前連結会計年度において、「流動資産」の「その他」に含めていた「未収消費税等」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「その他」に表示していた7,926千円は、「未収消費税等」4,239千円、「その他」3,687千円として組み替えております。	
前連結会計年度において、「流動負債」の「未払金」に含めていた「未払費用」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「未払金」に表示していた60,326千円は、「未払費用」680千円、「未払金」59,646千円として組み替えております。	

(9) 連結財務諸表に関する注記事項  
(連結損益計算書関係)

(訂正前)

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
給料手当 101,957千円	給料手当 289,673千円
法定福利費 28,680	法定福利費 30,605
賃借料 17,053	消耗品費 82,188
保険料 6,798	地代家賃 92,409
旅費交通費 20,679	減価償却費 45,133
業務委託料 34,551	水道光熱費 39,078
支払手数料 108,271	のれん償却費 66,367

旅費交通費	13,951
業務委託料	170,834
支払手数料	94,218

2 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

(1)減損損失を認識した資産グループの概要

場所	用途	種類	その他
北米	天然資源 開発投資 事業	坑井	

(2)減損損失の認識に至った経緯

当連結会計年度において、当社が権益を保有するバルザイク鉱区における生産性の低下により、坑井の回収可能額が著しく低下したことから減損損失を計上しております。

(3)減損損失の金額

坑 井 129,953千円

(4)資産のグルーピングの方法

当社グループは、原則として事業の種類別毎、会社毎、鉱区毎にグルーピングをしております。

(5)回収可能価額

坑井の売却や転用が困難であるため零円としております。

2 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

(1)減損損失を認識した資産グループの概要

場所	用途	種類	その他
神奈川県	食品事業	スーパー 店舗	

(2)減損損失の認識に至った経緯

当連結会計年度において、当社の連結子会社である(株)ハミングステージが有する直営スーパー店舗の収益性の悪化により、店舗固定資産の回収可能額が著しく低下したことから減損損失を計上しております。

(3)減損損失の金額

坑 井 129,953千円

(4)資産のグルーピングの方法

当社グループは、原則として事業の種類別毎、会社毎、鉱区毎にグルーピングをしております。

(5)回収可能価額

現状の生産水準で今後5年間獲得が見込まれる収益相当額を回収可能額としております。



(訂正後)

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)																																										
<p>1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">給料手当</td> <td style="text-align: right;">101,957千円</td> </tr> <tr> <td>法定福利費</td> <td style="text-align: right;">28,680</td> </tr> <tr> <td>賃借料</td> <td style="text-align: right;">17,053</td> </tr> <tr> <td>保険料</td> <td style="text-align: right;">6,798</td> </tr> <tr> <td>旅費交通費</td> <td style="text-align: right;">20,679</td> </tr> <tr> <td>業務委託料</td> <td style="text-align: right;">34,551</td> </tr> <tr> <td>支払手数料</td> <td style="text-align: right;">108,271</td> </tr> </table> <p>2 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p> <p>(1)減損損失を認識した資産グループの概要</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">場所</th> <th style="width: 20%;">用途</th> <th style="width: 15%;">種類</th> <th style="width: 50%;">その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北米</td> <td>天然資源 開発投資 事業</td> <td>坑井</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2)減損損失の認識に至った経緯 当連結会計年度において、当社が権益を保有するバルザイコ鉱区における生産性の低下により、坑井の回収可能額が著しく低下したことから減損損失を計上しております。</p> <p>(3)減損損失の金額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">坑 井</td> <td style="text-align: right;">129,953千円</td> </tr> </table> <p>(4)資産のグルーピングの方法 当社グループは、原則として事業の種類別毎、会社毎、鉱区毎にグルーピングをしております。</p> <p>(5)回収可能価額 坑井の売却や転用が困難であるため零円としております。</p>	給料手当	101,957千円	法定福利費	28,680	賃借料	17,053	保険料	6,798	旅費交通費	20,679	業務委託料	34,551	支払手数料	108,271	場所	用途	種類	その他	北米	天然資源 開発投資 事業	坑井		坑 井	129,953千円	<p>1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">給料手当</td> <td style="text-align: right;">205,556千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td style="text-align: right;">45,133</td> </tr> <tr> <td>のれん償却費</td> <td style="text-align: right;">66,367</td> </tr> <tr> <td>業務委託料</td> <td style="text-align: right;">170,834</td> </tr> </table> <p>2 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p> <p>(1)減損損失を認識した資産グループの概要</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">場所</th> <th style="width: 20%;">用途</th> <th style="width: 15%;">種類</th> <th style="width: 50%;">その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>神奈川県</td> <td>食品事業</td> <td>スーパー 店舗</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2)減損損失の認識に至った経緯 当連結会計年度において、当社の連結子会社である(株)ハミングステージが有する直営スーパー店舗の収益性の悪化により、店舗固定資産の回収可能額が著しく低下したことから減損損失を計上しております。</p> <p>(3)減損損失の金額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">抗 井</td> <td style="text-align: right;">129,953千円</td> </tr> </table> <p>(4)資産のグルーピングの方法 当社グループは、原則として事業の種類別毎、会社毎、鉱区毎にグルーピングをしております。</p> <p>(5)回収可能価額 現状の生産水準で今後5年間獲得が見込まれる収益相当額を回収可能額としております。</p>	給料手当	205,556千円	減価償却費	45,133	のれん償却費	66,367	業務委託料	170,834	場所	用途	種類	その他	神奈川県	食品事業	スーパー 店舗		抗 井	129,953千円
給料手当	101,957千円																																										
法定福利費	28,680																																										
賃借料	17,053																																										
保険料	6,798																																										
旅費交通費	20,679																																										
業務委託料	34,551																																										
支払手数料	108,271																																										
場所	用途	種類	その他																																								
北米	天然資源 開発投資 事業	坑井																																									
坑 井	129,953千円																																										
給料手当	205,556千円																																										
減価償却費	45,133																																										
のれん償却費	66,367																																										
業務委託料	170,834																																										
場所	用途	種類	その他																																								
神奈川県	食品事業	スーパー 店舗																																									
抗 井	129,953千円																																										

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)  
(訂正前)

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)																																																
<p>1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(平成23年3月31日)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">19,864千円</td> </tr> <tr> <td>預金期間が3か月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">19,864千円</td> </tr> </table> <p>2 株式の取得により連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳 (株)ハミングステージ</p> <p style="text-align: right;">(平成22年4月1日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">37,976千円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">37,976千円</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">21,887千円</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">負債合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">21,887千円</td> </tr> <tr> <td>当該会社株式の取得価額</td> <td style="text-align: right;">16,000千円</td> </tr> <tr> <td>当該会社の現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">23,854千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引 当該会社取得による収入</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">7,854千円</td> </tr> </table> <p>3 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳 ロドル社</p> <p style="text-align: right;">(平成22年12月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">124,077千円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">4,364千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">128,441千円</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">209,491千円</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">67,229千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">負債合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">276,720千円</td> </tr> <tr> <td>当該会社株式の売却価額</td> <td style="text-align: right;">10,790千円</td> </tr> <tr> <td>当該会社の現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">1,297千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引 当該会社売却による収入</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">9,492千円</td> </tr> </table> <p>重要な非資金取引の内容 当連結会計年度に新たに計上した重要な資産除去債務の額は、<u>119,899千円</u>であります。</p>	現金及び預金勘定	19,864千円	預金期間が3か月を超える定期預金	千円	現金及び現金同等物	19,864千円	流動資産	37,976千円	固定資産	千円	資産合計	37,976千円	流動負債	21,887千円	固定負債	千円	負債合計	21,887千円	当該会社株式の取得価額	16,000千円	当該会社の現金及び現金同等物	23,854千円	差引 当該会社取得による収入	7,854千円	流動資産	124,077千円	固定資産	4,364千円	資産合計	128,441千円	流動負債	209,491千円	固定負債	67,229千円	負債合計	276,720千円	当該会社株式の売却価額	10,790千円	当該会社の現金及び現金同等物	1,297千円	差引 当該会社売却による収入	9,492千円	<p>1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(平成24年3月31日)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">18,656千円</td> </tr> <tr> <td>預金期間が3か月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">18,656千円</td> </tr> </table> <p>重要な非資金取引 当連結会計年度に新たに計上した重要な資産除去債務の額は、<u>8,526千円</u>であります。</p>	現金及び預金勘定	18,656千円	預金期間が3か月を超える定期預金	千円	現金及び現金同等物	18,656千円
現金及び預金勘定	19,864千円																																																
預金期間が3か月を超える定期預金	千円																																																
現金及び現金同等物	19,864千円																																																
流動資産	37,976千円																																																
固定資産	千円																																																
資産合計	37,976千円																																																
流動負債	21,887千円																																																
固定負債	千円																																																
負債合計	21,887千円																																																
当該会社株式の取得価額	16,000千円																																																
当該会社の現金及び現金同等物	23,854千円																																																
差引 当該会社取得による収入	7,854千円																																																
流動資産	124,077千円																																																
固定資産	4,364千円																																																
資産合計	128,441千円																																																
流動負債	209,491千円																																																
固定負債	67,229千円																																																
負債合計	276,720千円																																																
当該会社株式の売却価額	10,790千円																																																
当該会社の現金及び現金同等物	1,297千円																																																
差引 当該会社売却による収入	9,492千円																																																
現金及び預金勘定	18,656千円																																																
預金期間が3か月を超える定期預金	千円																																																
現金及び現金同等物	18,656千円																																																

(訂正後)

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)																		
<p>1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(平成23年3月31日)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">19,864千円</td> </tr> <tr> <td>預金期間が3か月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">19,864千円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	19,864千円	預金期間が3か月を超える定期預金	千円	現金及び現金同等物	19,864千円	<p>1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(平成24年3月31日)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">18,656千円</td> </tr> <tr> <td>預金期間が3か月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">18,656千円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	18,656千円	預金期間が3か月を超える定期預金	千円	現金及び現金同等物	18,656千円						
現金及び預金勘定	19,864千円																		
預金期間が3か月を超える定期預金	千円																		
現金及び現金同等物	19,864千円																		
現金及び預金勘定	18,656千円																		
預金期間が3か月を超える定期預金	千円																		
現金及び現金同等物	18,656千円																		
<p>2 株式の取得により連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳</p> <p style="text-align: center;">(株)ハミングステージ</p> <p style="text-align: right;">(平成22年4月1日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">37,976千円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">37,976千円</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">21,887千円</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">負債合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">21,887千円</td> </tr> <tr> <td>当該会社株式の取得価額</td> <td style="text-align: right;">16,000千円</td> </tr> <tr> <td>当該会社の現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">23,854千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引 当該会社取得による収入</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">7,854千円</td> </tr> </table>	流動資産	37,976千円	固定資産	千円	資産合計	37,976千円	流動負債	21,887千円	固定負債	千円	負債合計	21,887千円	当該会社株式の取得価額	16,000千円	当該会社の現金及び現金同等物	23,854千円	差引 当該会社取得による収入	7,854千円	
流動資産	37,976千円																		
固定資産	千円																		
資産合計	37,976千円																		
流動負債	21,887千円																		
固定負債	千円																		
負債合計	21,887千円																		
当該会社株式の取得価額	16,000千円																		
当該会社の現金及び現金同等物	23,854千円																		
差引 当該会社取得による収入	7,854千円																		
<p>3 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳</p> <p style="text-align: center;">ロドル社</p> <p style="text-align: right;">(平成22年12月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">124,077千円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">4,364千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">128,441千円</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">209,491千円</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">67,229千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">負債合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">276,720千円</td> </tr> <tr> <td>当該会社株式の売却価額</td> <td style="text-align: right;">10,790千円</td> </tr> <tr> <td>当該会社の現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">1,297千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引 当該会社売却による収入</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">9,492千円</td> </tr> </table>	流動資産	124,077千円	固定資産	4,364千円	資産合計	128,441千円	流動負債	209,491千円	固定負債	67,229千円	負債合計	276,720千円	当該会社株式の売却価額	10,790千円	当該会社の現金及び現金同等物	1,297千円	差引 当該会社売却による収入	9,492千円	
流動資産	124,077千円																		
固定資産	4,364千円																		
資産合計	128,441千円																		
流動負債	209,491千円																		
固定負債	67,229千円																		
負債合計	276,720千円																		
当該会社株式の売却価額	10,790千円																		
当該会社の現金及び現金同等物	1,297千円																		
差引 当該会社売却による収入	9,492千円																		
	<p>4 事業の譲り受けにより増加した資産及び負債の主な内訳</p> <p style="text-align: center;">「ベジスタ赤坂」及び「道玄坂 旅籠」</p> <p style="text-align: right;">(平成22年4月1日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">487千円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">152,483千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">152,971千円</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">2,971千円</td> </tr> </table>	流動資産	487千円	固定資産	152,483千円	資産合計	152,971千円	流動負債	2,971千円										
流動資産	487千円																		
固定資産	152,483千円																		
資産合計	152,971千円																		
流動負債	2,971千円																		

重要な非資金取引の内容 当連結会計年度に新たに計上した重要な資産除去債務の額は、 <u>39,275</u> 千円であります。	固定負債	千円
	負債合計	<u>2,971</u> 千円
	当該事業の取得価額	<u>150,000</u> 千円
	当該事業の現金及び現金同等物	<u>150</u> 千円
	差引 事業譲受による支出	<u>149,850</u> 千円
重要な非資金取引 当連結会計年度に新たに計上した重要な資産除去債務の額は、 <u>8,526</u> 千円でありませ		

(セグメント情報)

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目に関する情報

(訂正前)

当連結会計年度(自 平成 23 年 4 月 1 日 至 平成 24 年 3 月 31 日)

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	天然資源開発 投資事業	食品事業	環境事業	
売上高				
外部顧客への売上高	9,361	1,857,017	42,239	1,908,618
セグメント間の内部 売上高又は振替高				
計	9,361	1,857,017	42,239	1,908,618
セグメント損失	1,951	300,260	10,281	312,492
セグメント資産	7,765	535,858	577	544,201
セグメント負債	5,079	375,166		380,246
その他の項目				
減価償却費	2,307	<u>44,467</u>		<u>46,775</u>
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額		144,313		144,313

(訂正後)

当連結会計年度(自 平成 23 年 4 月 1 日 至 平成 24 年 3 月 31 日)

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	天然資源開発 投資事業	食品事業	環境事業	
売上高				
外部顧客への売上高	9,361	1,857,017	42,239	1,908,618
セグメント間の内部 売上高又は振替高				
計	9,361	1,857,017	42,239	1,908,618
セグメント損失	1,951	300,260	10,281	312,492

セグメント資産	7,765	535,858	577	544,201
セグメント負債	5,079	375,166		380,246
その他の項目				
減価償却費	2,307	<u>44,266</u>		<u>46,573</u>
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額		144,313		144,313

3. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（訂正前）

（単位：千円）

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	25,594	<u>46,775</u>	1,202	866	26,796	<u>47,642</u>
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	445,466	144,313	699		446,166	144,313

（注）有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、本社の設備投資関連であります。

（訂正後）

（単位：千円）

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	25,594	<u>46,573</u>	1,202	866	26,796	<u>47,439</u>
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	445,466	144,313	699		446,166	144,313

（注）有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、本社の設備投資関連であります。